

新宮山彦ぐるーふ 第2406回

## 行仙宿の迎春準備など

◇実施日 12月18日（木） 晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、村吉光夫、梶野照雄 4名

行仙宿の迎春準備を21日に予定していたが、天気予報で20、21日が雨になっていたので18日に前倒しして行つた。午前8時前に村吉さんから電話で「浦向の先で工事通行止めになつていて連絡があつた。村吉さんは午前8時前に通過したようだ。」



通行止めの案内

登山口の桜の枝

大台ヶ原も雪がない

役場駐車場で沖崎さんと落ち合い、通行止めの詳細を聞くと、午前10時から30分間は通れるそうだ。まだ1時間半ほどあるので役場新宿舎に行って家郷課長と情報交換をした。午前9時半ごろ浦向

の墓地前に移動し、通行止めの解除を待つ。暫くして湯川君が到着。沖崎、湯川の2名は行仙宿に向かわず登山口で杉本さんが持つてきた桜の木を整理する作業を行うことになった。



旧終点に向かう



丸太を降ろす



小屋の鏡餅



小屋には寝床が



お堂のしめ縄



午前10時に通行止めが解除され登山口に向かう。工事は以前にネットを被せた法面の続きで、同じようにモルタル吹付の後ネットを被せるようだ。登山口に着くと村吉さんが桜の枝を整理中だつた。砂利の土嚢袋を6つと正月飾りなどを積んで終点に向かう。旧終点で砂利などを降ろし終点に着く。荷物を降ろして再び登山口に向かつた。村吉さんは正月飾りなどを小屋まで運び、お堂前の丸太を終点まで運ぶために残つた。登山口に着くと桜の枝は半分くらいが切り揃えられて、午後3時の通行止め解除時間に下山するそうだ。残りの砂利9袋を積み旧終点にこれらを降ろして終点に向かい、チエーンソーとザツクを担いで小屋に向かつた。途中で丸太を担いだ村吉さんと出会い、背負子を置いて終点に戻つた。丸太4本と村吉さんを旧終点に運び、再び終点まで登つて小屋に向かつた。



枝が落ちている  
水場は涸れていた  
しめ縄交換完了  
村吉さんは補給路の補修工事を午後まで続け、午後3時の通行止め解除時間に下山するらしい。工事を続けていたら森林組合の4人が

下山ってきて、資材運びを手伝つてくれた。おかげで思つていたより進捗したそうだ。



小屋に着くと寝床が二つ準備されていた。今日の宿泊者ようだ。もうお昼を過ぎていたのでまず昼食を摂る。食後、管理棟、小屋、お堂の正月飾りを設置した後、熊手としめ縄を持って水場に降りた。途中、直径5cmくらいの折れた枝が道を塞いでいたが簡単に取り除くことが出来た。水場に近づいても水流の音は聞こえず、涸れていることは予想できたが、降りてみると完全に涸れてしまつてている。長期間流れが無かつたらしく、溜まつた落ち葉が腐り腐臭が漂つてゐる。熊手で落ち葉を掃除したが落石が多くあり、きれいにはできなかつた。しめ縄も切れていて、落石の多かつたことが想像できる。しめ縄を交換して小屋に戻ると、ストーブ前で二人の宿泊者が寛いでいた。岐阜県の男性と石川県の女性で、笠捨山まで行つてきたそ

屋南へ向かった。先日引き上げた丸太や板の残りを薪用に短く切った。20分ほどで作業終了し小屋に戻る。倉庫や管理棟の戸締りを確かめ下山準備。宿泊者が、手ぬぐいが欲しい、と言っていたので再び管理棟を開けて3枚をお買い上げいただいた。



登山口水場は激減

しめ縄交換完了 桜は切り揃えられていた

午後4時過ぎ、お一人に別れを告げ下山。雨水槽の水抜きはできなかつた。旧車庫跡にモノレールを停め登山口水場のしめ縄交換に向かつた。古いしめ縄を外すのにてこずつたが無事に交換を終え登山口に下山した。登山口の水場も水量が激減していて、普段の2割ほどの流れになっていた。

(記・梶野)

## 行動タイム

08:40 村役場駐車場→09:30 浦向墓地前 10:00→10:25 補給路登山口→10:50 ロジマハウス→11:08 補給路登山口→11:33 ロジマ

ハウス 11:42→11:52 登山口→12:11 行仙宿 13:37→13:52 水場→14:38 行仙宿 16:13→16:23 ロジマハウス→16:37 登山口 水場→16:53 補給路登山口